

市 名簿は正しく管理しないといけないので、市が作成した名簿を自治会関係者に配付する時には、使用するための注意事項を伝えることや、説明書を配っています。

市 名簿の更新(支援者の情報) 自治会長さん、民生委員さんをお願いをしています。

市 地域の更新については、名簿の更新については、例えば、自宅を出て高齢者施設に入所された方がいた場合は、自治会長さんから市役所に連絡してもらい、市から御家族に確認をした上で、名簿から削除をしています。

市 障がい者施設で専門員として働いている人は、市と関係性が深く、支援者の情報を既に知っているの、名簿の作成を行う場合や、定期的な訪問をする点からも有効ですが、そのような選択肢をつくることはできませんか。

市 要介護認定を受けている要支援者については、福祉の専門員が関わっています。現在、場合によって名簿の登録申請、更新に携わってもらっています。

市 個別避難計画(災害が起こった時に支援者がどのように非難するのかあらかじめ決めておくための計画)を作る時は、専門員の関係づくりを意識しながら取り組んでいます。

市 名簿の管理は、支援者と関係者との関わりの中で、個人情報保護に十分注意して、取り組んでいきます。

市 自治会の役員さんは2年間で交代している、定期的な更新や訪問の仕事はとも大変だと思っています。

市 それよりも専門の支援員さんの方が対象となる方と関わりがあるので、初期のアプローチの段階で名簿への個人情報提供について、承諾してもらっておくことで、その後の支援もスムーズだと思っています。詳しく調査してください。

市 市からの補助については、大きな費用が必要な時や大規模な改築工事等において、その負担を減らすために補助事となつています。普通の利用によって傷んだりしたものは各自治会で修理をしてください。

市 公民館は地域住民の活動の場、交流の場、学びの場として活動の中心的な施設です。地域の住民活動が活発になることや、安全安心につながる活動のために重要な役割を果たしています。

市 公民館は、それぞれ維持管理まで自分たちで守って行くものです。

市 その活動の基本となるルールや役割分担については、常に見直しをしている自治会もあれば、そうではない自治会もあると思います。

市 自治会加入者が減っているの、ルールや役割分担について、市がアドバイザーやサポートをした方がよいと思いますが、市はどのようになっていますか？

市 市も自治会の変化への対応をサポートする必要があります。

市 市は、新しく就任した自治会長さんに、オリエンテーションや自治会の活動の見直しにつなげてもらえるように、研修会を開催しています。

市 市は自治会の活動をサポートすることや、補助金(活動の一部を応援するためのお金)も渡しているの、自治会のルールがどうなっているのか、知っておく必要がある。

市 長寿命化(建物より長く使えるようにすること)のための工事(屋根や外壁の修繕、脱炭素視点の工事)再生エネルギーの活用、断熱性能、遮熱性の向上)をする場合も補助の対象にしたほうがよいのではないですか？

市 市としてどこまでサポートするのか、また、各自治会に公民館活動をどこまでしてもらうのか、とても大きな考え方の整理が必要で。

市 このルールは、平成15年に決めました。平成9年の記録でも12万5000円となっていて、その時の費用を参考にしたいです。

市 要があると思います。また、最近では自治会員が減少することなど、困りごとを解決するためにも、市や専門機関がルールについての相談を広く受け付け、より時代に合ったアドバイスをする必要があるのではないですか？

市 住民自治(住民自身が自分たちの住む地域を守って行くこと)、協働(市と住民は対等にまちづくりを行うこと)という基本的な考え方があるので、まずは各自治会(自分たち)で考えてもらう必要があると思います。

市 しかし、一方で、市として自治会の様々な取組をサポートしていく必要があるの、各自治会の皆様とコミュニケーションをとり情報を集めながら、状況に応じた正しいアドバイスをしていきたいと思います。

市 住民自治は住民が主体だというの、私も理解していますが、多くの自治会のこと、心配なので質問しました。

市 農村集落の地域に開発によって新たに住宅が建てられ、その宅地の横の土地が

市 要綱を作ってから年数も経過して、今の時代に合わない点もあると思います。

市 要綱の目的の1つが、公民館を自主避難場所としての役割を整えることであるならば、調理室、太陽光発電、蓄電池、簡易シャワー室、空調機能についても補助の対象にしたほうが、この制度を利用する自治会が増えるから、公民館の役割が充実することになり、自治活動が活発化するのではないですか？

市 公民館を自主避難所として活用することについては、地域でも様々な意見が出されています。公民館の役割を整えるための補助の方法や考え方について、調査や研究をします。

市 農地、水路、市有地である場合、これまではご近所の住民や農業者が「お互い様の気持ち」で維持管理をしてきたと思いますが、最近では新たにその地域に住み始めた人に、それまでのその地域の事情や情報が伝えられていないことや、そもそも草刈りをした経験がないことなどが原因で、昔からその地域に住んでいた人や市の負担が増えているように感じます。

市 また、これまで自治会の中心的存在で新旧住民のつなぎ役となっていた農家や個人事業者が高齢化によって自治会の役員さんから外れてしまうことで、自治会と農業の関係性が薄れてしまい、困りごとが出ていると思います。市はどう思っていますか？

市 住んでいる人と人とのつながりが強い自治会では、農業との連携協力や地域内の土地、水路等の維持管理を行っており、今もその役割を果たしている自治会は一定数あります。

市 一方で、時代の変化とともに、その自治会だけで解決できない困りごとが発生して、市への相談も増えていきます。

市 市民生活をお互い様の気持ちで支えている自治会は、非常に大切です。

市 自治会の役員さんの仕事はたくさんあって、専門的な知識も求められていて、その負担はとも大きいですが、これからは農業に関する相談の対応が、区長さんたちの負担として大きくなると思います。

市 市民と市が役割分担していくことは、住民生活の基本であると思います。

市 ただ、市は3年で仕事の仕方を見直して、5年10年でルールの見直しをしています。

市 そして、民間の会社も宗像市や商工会などに相談窓口があつて手厚いサポートをしております。このようなサポートが自治会にも必要だと思っています。

市 自治会がよりよくなるためのルールづくり、農地や水利についてのフォローなど、区長さんたちが気軽に相談できる窓口を市につくり、積極的にアドバイスを行うようお願いします。

市 自治公民館の役割とは何でしょうか。(公民館長の経験者として質問しました)

市 学校と地域コミュニティが連携して、子ども110番の家への駆け込み訓練を行っている地域や、子ども110番の家の顔合わせを行っている地域もあります。

# 安全でこそ安心できるまち

令和3年に、子ども110番の家について質問しました。残念なことに、110番の家の情報を詳しく知らないという話で「この取り組みは宗像市から地域コミュニティにおいて始まった取り組みなのに、宗像市として関わりが薄いので、関係する人たちと話し合いたい」と、お返事がありました。

市は、この取り組みを学校や地域と一緒に考えながら、子どもたちが安全に生活できる環境を整えていきたいと思っています。

市 要綱の目的の1つが、公民館を自主避難場所としての役割を整えることであるならば、調理室、太陽光発電、蓄電池、簡易シャワー室、空調機能についても補助の対象にしたほうが、この制度を利用する自治会が増えるから、公民館の役割が充実することになり、自治活動が活発化するのではないですか？

子ども110番の家は、平成8年頃から始まりまして、今、防犯意識も変化してきていて、子どもたちの中には、知らない人は不審者と思うほど警戒心を持っている子どもも少なくありません。子ども110番のステッカーが張ってあつたとしても、知らない人の家に助けを求めるのはとても勇気が必要だと考える子どもが多いのが現状です。

市 公民館を自主避難所として活用することについては、地域でも様々な意見が出されています。公民館の役割を整えるための補助の方法や考え方について、調査や研究をします。

市 コミュニティスクールは学校、地域、保護者などが総がかりで子どもを守ることでと私は思います。